

緊急

クラスター防げ 現場は今



スポーツジムの屋外テラスで距離を空けて運動する利用客。24日夜、名古屋市中区のラ・グラッセ山王橋で（松田雄亮撮影）

ジム 屋外でエクササイズ

新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除されて一カ月。名古屋市では二―三月、スポーツジムと高齢者のデイサービス施設でクラスター（感染者集団）が発生したが、営業を再開した同業の施設は感染予防策を講じ、新たな営業の形を模索している。

二十四日夜、名古屋市中区のスポーツジム「ラ・グラッセ山王橋」では建物九階の屋外テラスで音楽に合わせ十二人が体を動かした。室内で行うのが一般的だが、今月、換気の良い屋外に会場を新設。初めて参加した同区の美容師山中菜々子さん（三巴）は「夜風が気持ちいい。室内は感染が気になるので、ありがたい」と汗をぬぐった。

四月半ばから休業し、今月一日に時間を短縮して営業を再開。入り口に体温を検知するカメラを置き、エレベーターにはボタンを押すためのつまようじも用意した。

デイ施設 換気や検温徹底

運動中もマスク着用を求め、酸欠にならないよう、体の動かし方や負荷のかけ方も従来の七割に抑えるよう指導している。今も会員の三割は休会中だが、マネジャーの成瀬由起さん（三巴）は「安全・安心なジムが目指す姿です」と話した。

一方のデイサービス。名古屋市は三月、緑区と南区の全施設に二週間の休業を要請した。対象となった南区の「ミライプロジェクト新瑞橋」は、職員や利用者らの手の消毒だけでなく、冷房をつけている間も窓を開けて換気。入り口でサーモグラフィによる検温を実施し、三七度を超えると音が鳴るように設定した。

利用者は三月二十一日の再開直後、一時は休業前の三分の二に減ったが、今は以前とほぼ同じ六十人に。施設長の牧野和博さん（四巴）は「気の緩みがないように、できる限りの対策をする」と話した。